

「場」202105

新緑がさわやかで気分がいい・・・と言いたいところだけど、気分が悪い。

緊急事態宣言の延長で、映画館はプラネタリウムと共に休業命令が出された。劇場はOKだけど映画館はNG・・・どうしたことなんだろう？ 黙ってスクリーンに向き合う映画館がNGなことの理由が、さっぱりワカラナイ。説明も無いしね・・・。

役人や政治家になるような人は、賢い人はずだけど、きっとよほどの話題作でないと映画館に足を運ばないのだと思う。

「コロナ禍」の状況で露呈してしまっているのは、格差社会ということかもしれない。普通の一人ひとりが生きている「場」を生きていない人が、モノゴトを決めている感じがしてならない。

メディアも含めて、賢い人たちの「場」を見る力が落ちていると思う。「空気」を読む力ばかりが強くなって・・・。もともと、教育の方向が「他人事」の知識を競い合うゲームのようになってしまっていることが、大きな要因かもしれない。

映画館に休業命令を出す根拠は、おそらくテレビや配信で事足りる・・・ということなんだろう。映画館は無くなっていい、ということなのだ。まして、私たちがゲリラ戦のように、地を這うように展開している自主上映などは、完全に視野の外。

「場」の大切さを知らないのだ。「場」は無くてもいい、無い方がいいとさえ思っているのかな。

私たちの自主上映は、映画を観るだけでなく、人と人とが出逢う「場」、と考えて

やってきた。トークセッションがあったり、上映後に語り合いをしたりしながら「場」創りとしての上映に取り組んできたつもりだ。だから、一度自主上映会を企画した方々は、その手応えが忘れられずに、二度三度と必ず上映を続けてくれる。

映画を、テレビや配信で事足りる、と考えてしまう人は、「場」が全く見えていない、見ようとしていない。多分、自主上映会には足を運んだことなど無いのだろうな・・・行っても“時間の無駄だ”“得にならない”としか考えていないのかな？

映画に限らない。「場」を大切にしたいを失ったら、人々は大切な生きることの中身を失うことになる。今回の「コロナ禍」は、そのことの危機をも知らせてくれた。学校も、会社も、行かないで済むなら行かない方がいい・・・と、この頃は言う人もいる。本当にそうだろうか？ 人と集まることは悪だ・・・という考えが正義のようにまかり通っている。とにかく人とかかわらない方がいい・・・と。

ケンカしたって、面倒だって、煩わしくたって、誰かが傍に居た方がいいじゃないか。当たり前だ。「場」の大切さを、もう一度、みんな思い返してほしい。

「だって君は、一人で勝手に何かをやって行くことなんて出来ないだろう・・・」

(遠藤 滋)

映画「えんこの歌」は「場」を描いた映画だ。今こそ観られなければならない。生き生きとした「場」の喜びを受け止めてほしい。

伊勢 真一